

# 安全な農畜水産物安定供給のための包括的レギュラトリーサイエンス研究推進事業

【令和8年度予算概算決定額 510（602）百万円】

### <対策のポイント>

食品安全、動物衛生、植物防疫等の問題発生 of 未然防止や発生後の被害拡大防止のため、**行政施策・措置の決定に必要な科学的知見を得るための研究（レギュラトリーサイエンスに属する研究）**を、内容に応じて柔軟に規模や期間などを選択して実施します。

### <事業目標>

- **安全な国産農畜水産物の国内外への安定供給に資するため、食品安全・動物衛生・植物防疫・水産防疫の行政施策・措置に反映可能な科学的知見（有害化学物質等の低減技術、高感度分析法、難防除病虫害の防除技術、家畜用ワクチン、疫学データ等）を取得** [令和11年度まで]

### <事業の内容>

#### 1. 課題解決型プロジェクト研究

シーズ研究から応用・開発まで、我が国の研究勢力を結集して総合的・体系的に推進すべき長期的視点が求められる大規模な研究を実施します。

（研究費・研究実施期間）

- 研究費：課題ごとに設定
- 研究期間：原則 5 年

#### 2. 短期課題解決型研究

現存する技術シーズや知見を活用して、1～3年程度で成果が見込まれる比較的小規模の小さい研究課題を短期的・機動的に実施します。

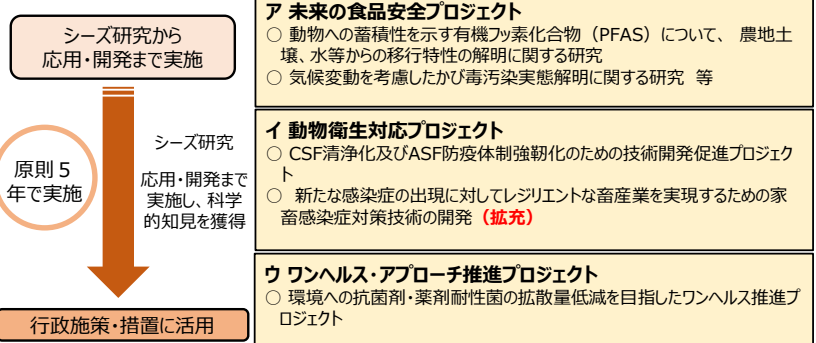
（研究費・研究実施期間）

- 研究費：3,000万円以内/年
- 研究期間：原則 3 年以内

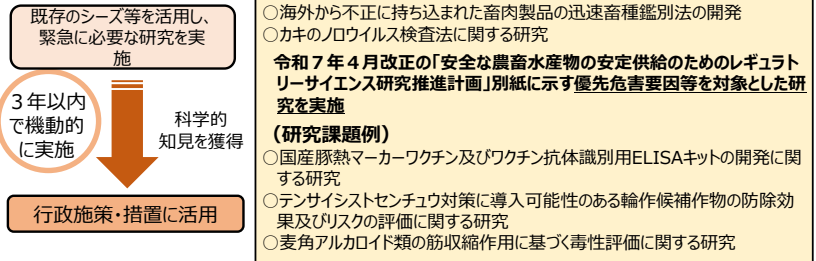
※レギュラトリーサイエンス：科学的知見と、規制などの行政施策・措置との間を橋渡しする科学。  
※PFAS：パーフルオロアルキル化合物及びポリフルオロアルキル化合物。約1万種以上あるとされている人工の有機フッ素化合物（PFOA、PFOS等も含む）の総称。  
※PFOA：パーフルオロオクタン酸。水や油をはじく性質があり、調理器具のフッ素樹脂加工、紙の表面処理剤等に用いられてきた有機フッ素化合物。  
※PFOS：パーフルオロオクタンスルホン酸。水や油をはじく性質があり、撥水剤、表面処理剤、泡消化剤等に用いられてきた有機フッ素化合物。  
※CSF：豚熱（CSF）ウイルスの感染によって、豚やイノシシに発熱、呼吸障害等を起こす伝染病。  
※ASF：アフリカ豚熱（ASF）ウイルスによって、豚やイノシシに発熱や全身の出血性病変を起こす致死率の高い感染症で、我が国の家畜伝染病のひとつ

### <事業イメージ>

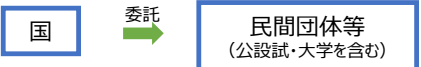
#### ①課題解決型プロジェクト研究



#### ② 短期課題解決型研究



### <事業の流れ>



【お問い合わせ先】 農林水産技術会議事務局研究開発官室（03-3502-0536）  
消費・安全局食品安全政策課食品安全科学室（03-3502-5722）

安全な農畜水産物安定供給のための包括的レギュラトリーサイエンス研究推進事業のうち

② 短期課題解決型研究

【令和8年度予算概算決定額：73（90）百万円】

事業内容

食品安全、動物衛生、植物防疫等の分野において、適切なリスク管理措置等を講じるため、現存する技術シーズや知見を活用して、法令・基準・規則等の措置の決定に必要な科学的根拠を得るための研究を機動的に実施。

実施中の研究課題例

国産豚熱マーカーワクチン及びワクチン抗体識別用 ELISA キットの開発に関する研究

動物衛生上の問題点

ワクチン接種を継続しつつ、豚熱清浄化を目指すために、野外株感染豚と識別可能なマーカーワクチンの使用が必要。また、マーカーワクチンを接種した豚と野外株感染豚を識別するためのELISAキットも同時に開発を行う必要がある。

行政施策・措置

開発されたワクチン及び識別 ELISA キットを用いて、迅速に豚熱感染個体の摘発、淘汰を行う。また、精度の高いサーベイランスを実施し、豚熱清浄化を推進。

行政施策・措置に必要な科学的知見

研究開発

マーカーワクチン候補株の有効性の持続期間の検証及び必要に応じて効果持続のための手法の検討を行う。また、当該株の遺伝子組換え部位(Enns)発現タンパク質を用いた抗体検出間接 ELISA キットの開発を進める。

テンサイシストセンチュウ対策に導入可能性のある輪作候補作物の防除効果及びリスクの評価に関する研究

植物防疫上の問題点

長野県の一部地域で緊急防除を実施しているテンサイシストセンチュウ(Hs)について、Hsが確認された地域で通常の営農活動を早期に再開させつつ、本線虫の再発生又は発生を防止するために、より効果的な防除技術の確立が必要である。

行政施策・措置

Hs に対する防除対策の高度化を図り、必要に応じて緊急防除に関する省令等の防除措置に係る内容の見直し等の検討を行う。

行政施策・措置に必要な科学的知見

研究開発

評価に適した供試シストの調整手順の標準化や必要な試験期間等の検討を行い、標準的なふ化促進評価手法を確立。また、輪作候補作物の Hs に対するふ化促進効果及び寄生性の評価を行う。

麦角アルカロイド類の筋収縮作用に基づく毒性評価に関する研究

食品安全上の問題点

麦角アルカロイド類について、分子種ごとの毒性に関する科学的知見が不足。麦角アルカロイド12分子種の毒性強度を考慮した毒性等価係数(TEF)の設定が国際的にリスク評価及びリスク管理を進める上で課題となっている。近年、海外の一部の小麦生産国で麦角病の発生拡大が報告されているところ。

行政施策・措置

麦角アルカロイド類のリスク評価やリスク評価結果の妥当性の検証を実施する際の基礎データとして活用する。

行政施策・措置に必要な科学的知見

研究開発

麦角アルカロイド類の毒性所見である筋収縮作用の試験条件の決定、各麦角アルカロイド類の作用比較、作用メカニズムの検証を行う。

R8年度に実施する内容

R7年4月改正の「安全な農畜水産物の安定供給のためのレギュラトリーサイエンス研究推進計画」別紙に示す優先的に対応すべき危害要因等の研究を、計画的に実施。

このため、R8年度より、同計画に基づく研究課題(対象:有害化学物質・微生物、家畜疾病、植物病虫害、水産疾病)及びR7年度内に新たに発生すると想定される課題を確実に実施。

安全な農畜水産物の安定供給のためのレギュラトリーサイエンス研究推進計画

優先すべき危害要因等をリスト化

- ・有害化学物質
- ・有害微生物
- ・動物疾病
- ・植物病虫害
- ・水産動物疾病

研究成果を食品安全・動植物防疫等の施策・措置に反映することにより、安全な国産農畜水産物の安定供給が可能となり輸出促進にも貢献